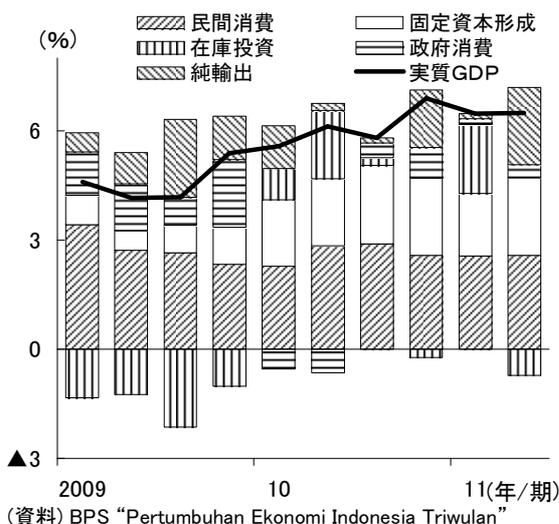


力強いインドネシアの個人消費

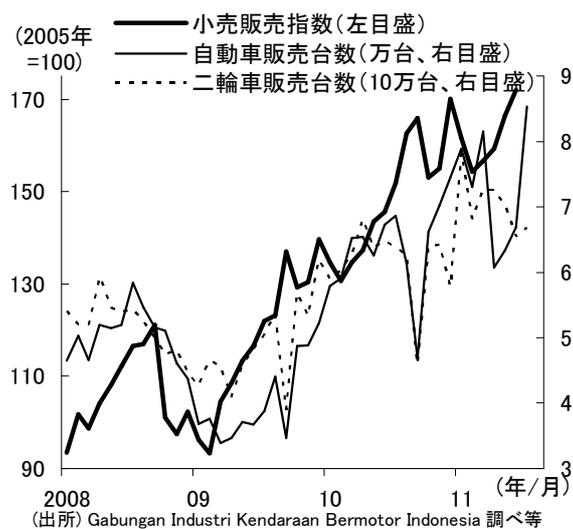
～ 減少する貧困層と台頭する中間層 ～

- (1) インドネシアは引き続きハイペースの経済持続。実質経済成長率は、前年比ベースで、2011年1～3月期の6.47%から4～6月期も6.49%と2期連続6%台半ばの高成長（図表1）。牽引役は消費と投資、輸出の三本柱。寄与度に即してみる限り、このところ、設備投資や輸出の盛り上がりが見られる。しかし、一歩踏み込んでみると、消費情勢にも変化。
- (2) まず本年に入り、小売販売動向が再び強含むなか、従来、急成長を遂げてきた二輪車の販売動向に翳りが広がる一方、自動車販売では一段と加速の兆し（図表2）。二輪車から自動車への転換の兆しは、さらなる所得・雇用環境の改善を受けた消費拡大に加え、所得水準の上昇に伴う需要の上方シフトの進行を示唆。
- (3) 背景には、貧困層の減少、すなわち中間層の拡大（図表3）。90年代後半以降の推移をみると、貧困層は全国で5千万人規模から本年3月、3千万人に大幅減。都市圏と地方圏別に見ると、都市圏の貧困層数に大きな変動はみられず、地方圏の貧困層減が顕著。
- (4) 昨年からの地方圏の貧困層減少は人口移動が主因（図表4）。総人口と中間層以上の人口の推移をみると、地方圏の人口が横這うなか、都市圏の人口が急増。地域別には従来のジャワ島中心から転換。スマトラ島等で都市化が進み、多くの地域で経済成長が本格化へ。そうした構造変化を踏まえてみれば、同国の力強い成長軌道は中期的に持続する公算大。

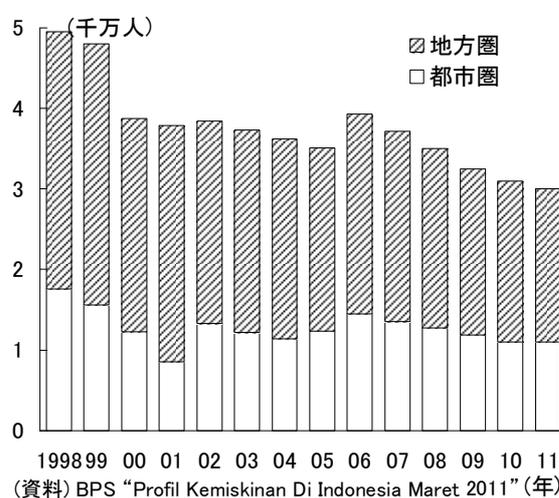
（図表1）インドネシアの実質経済成長率（前年比）



（図表2）インドネシアの消費動向（季調済）



（図表3）インドネシアの都市・地方圏別貧困層数



（図表4）インドネシアの貧困層を除く人口と総人口

